吹田市
文化財ニュース

No. 1
昭和53年11月1日
〒564 吹田市泉町1丁目3番40号
吹田市教育委員会
TEL (06)384—1231

千里市民センターに
郷土資料展示コーナー

千里ニュータウンにある千里市民センターの一階正面の老人コーナーに至る通路に、展示ケース5台を置いた郷土資料展示コーナーができ、発掘調査等で出土した埋蔵文化財が展示されています。

これまで、このような展示施設は市役所一階エレベーター前にガラスケースが1台あるのみで、近年頻発に続けられている発掘調査によって出土した多量の土器・木器を、市民の皆様に見ていただける施設が充分でなかっただけに、今後の有益な活用に期待できそうです。

現在は、古墳時代（4世紀～7世紀）のものを中心に約60点が展示されています。展示の中心は、市内の遺跡の過半数をしめる須恵器窯跡から出土した須恵器と、各地の古墳から出土した石室用の石材や、陶棺など、本市の古墳時代を代表する遺物です。

また昭和51年から急速に調査の進められている垂水南遺跡の出土須恵器・土師器や調査状況を示す写真パネルもあわせて展示しました。この遺跡は垂水町3丁目を中心とする130,000㎡にも及ぶ、本市最大規模をほこる5世紀代の集落遺跡です。既に住居址、土壙、河川跡、水田跡、堰などが発見され、今後も引き続いて調査が行われます。

吹田くわい

宮本照男

子供の頃よりくわいは吹田の名産で、お正月のおせち料理に「芽が出る」で欠かせない食べ物でした。昭和の初めまでわざわざ鴨の形をした藁苞（ワラズト）に入れた吹田ぐわいが進物用として珍重がられていました。昭和10年位まで吹田の西南部又神崎川周辺は、水郷的風影のある土地柄であり、井路（イジ川）のあちこちで合鴨（まがもと青首あひるの雑種）があそんでおりました。藁苞の鴨の形はそんな形にちなんだのでしょう。

もともとくわいは、水田の雑草として自生し、水田の草取作業にくわいだけ残して秋の刈取が終ってから掘りおこして進物にしたり、市場へ出荷され、大体11月から翌年３月の終り頃までが旬（シュン）と云われています。その吹田ぐわいも戦後農薬の発達で、今から20年位前には絶滅したのではないかと心配していました。幸い南吹田５丁目の木下ミチさんが自宅で保存されており一安心したものです。今では万博公園内日本庭園と、ニジマスセンターに分植されていると聞いております。

くわいと云う名前は古く、食べられる「イ」（いぐさ、かやつりぐさの一種）とも云われて、万葉の時代には小奈義（コナギ）とも呼ばれていました。植物図鑑でしらべて見ますとおもだか科の植物で13属100余種もある多年生草本です。

① くわい　Sagittaria L. Var. Sinensis Makino　（異名―はくぐわい、しなぐわい）古く中国から渡来し、以来各地の水田に多く栽培される。地下の球茎は大きくでん粉質にとみ、広楕円形で表面は白色、食用とするために栽培されている。

② おもだか　Sagittaria trifolia Linn（異名はなぐわい野茨菰）沼地や田んぼに生えるもので、球茎は小さくて食用に適さない。

③ 吹田くわい　Sagittaria trifolia Linn forma Suitensis Makino（異名―豆ぐわい、はかりぐわい、こぐわい、姫ぐわい）おもだかの一変種で大阪の吹田地方に主として栽培されるのでこの名があり、もともと淀川右岸の湿地帯に自生し、球茎はおもだかよりも大きく、くわいよりも小さいから豆ぐわいとか、こぐわいとか云って珍重された。

命名は故牧野富太郎博士がされましたが、何処で（字地）採集され、どのような経路で命名されたかは定かでない。植物の名前で「吹田」と付くのはこれだけでしょう。このように書かれている吹田くわいは、形は短球形で、1～2cm位の青丸と白長とがあり、青丸は黒味がかった青い皮、白長は白皮の楕円形で肉質がち密で甘味があり、くわい中最も美味なものと云われています。青丸はやや固い土質、白長はどちらかと云うとやわらかい土質のようです。吹田くわいの自生地（字地）として屋壁、井関（清和園付近）、仲田、広身（穂波町付近）、大渕、新田（南

吹田付近)、又移植地は前野、塚本(市役所付近)です。屋壁、井関、仲田、広身は青丸、前野、塚本、大渕、新田は白長です。

吹田くわいが京都付近にも移植され、東寺ぐわいと云う名でも呼ばれています。天正14年(1586年)羽柴秀吉が関白となり、豊臣の姓を賜り、聚楽第を作りその土居を築くために京のあちこちの土を取りました。そのあとの水田に水藍(ミズアオイ、たで科の一年草、葉から染料のあいを取る)の裏作として朝鮮産の「ラクダ」と云うくわいを輸入したのですが、味の点で良くなく、のちに吹田くわいを京洛の内外に移して東寺ぐわいの名が生まれました。吹田はもともと御料地(方)があった関係で、霊元天皇、天和3年(1683年)頃より明治維新まで御料方百姓が毎年禁裏、仙洞、女御、大宮、の四御所に吹田くわいを献上箱に入れて献上したものです。近くは、明治天皇津村別院行幸の折、明治43年11月大正天皇の皇太子が陸軍大演習のための行啓の折、大正4年12月大正天皇御大礼の折等献上されています。

江戸時代末期の狂歌師蜀山人、大田南畝(しょくさんじん、おおたなんぽ 1749～1823年)は

「思いある鱧(はも)の骨切りすり流し吹田ぐわいに天王寺蕪(かぶら)」

と上方料理の味をよんでいます。当時の大阪名物番付でも関脇の位に位置していました。数年前まで吹田南部にはまだ所々水郷風影が残っていましたが、急激な都市化の波が進み風影も一変され、コンクリートジャングル化してきました。遠い昔よりこの地に生まれ、日本の息吹を今日に伝えて来た吹田くわいが、永久にその命を吹田の地に持ち続けて行けるよう、皆さんの理解と協力をお願いする次第です。

(吹田市南吹田5丁目10—9
大阪府文化財愛護推進委員)

千里市民センター郷土資料室

展　示　品　目　録

昭和53年9月1日～12月28日(予定)

展示品名		点数	出土遺跡名(出土地)
石室使用石材		6	垂水西原古墳
須恵器	杯	1	吉志部古墳
ガラス玉		1	吉志部古墳
鉄製刀子		1	吉志部古墳
亀甲形陶棺片		1	原町3丁目
亀甲形陶棺片		2	山田下
四柱式屋根形陶棺片		1	山田下
四柱式屋根形陶棺片	(脚部)	1	長野東　似禅寺蔵
須恵器	提瓶	1	45号窯跡(佐井寺)
	甕(口縁部)	2	40号窯跡(藤ヶ丘町)
	台付小形短頸壺	1	40号窯跡
	高杯	1	40号窯跡
	鼎	1	40号窯跡
	杯	3	40号窯跡
	杯蓋	3	40号窯跡
土師器	甕	1	40号窯跡
須恵器	甕(口縁部)	1	12号窯跡(原町)
	甕(口縁部)	2	45号窯跡(佐井寺)
	短頸壺	1	12号窯跡(原町)
	直口壺	1	12号窯跡
	横瓶	1	12号窯跡
須恵器	甕(口縁部)	1	12号窯跡
	杯	2	45号窯跡(佐井寺)
	杯蓋	2	45号窯跡
	低脚高杯	1	45号窯跡
	横瓶	1	45号窯跡
	高杯	3	38号窯跡(竹谷町)
	高杯蓋	1	38号窯跡
土師器	小形丸底壺	6	垂水南遺跡
	壺	2	垂水南遺跡
	大形壺	1	垂水南遺跡
	大形壺(口縁部)	3	垂水南遺跡
	高杯	2	垂水南遺跡
	鉢	1	垂水南遺跡
	甕	4	垂水南遺跡
須恵器	杯	1	垂水南遺跡

※展示品は都合により展示替えをすることがあります。

このページは、市内の郷土史、歴史研究グループを紹介しました。お問合わせは、会事務局、あるいは代表者へ。

吹田郷土史研究会

吹田郷土史研究会は、吹田市をめぐる歴史的風土を愛し、東アジアと日本史のなかの一つの地域史として、かくれた郷土の歴史と文化財を探究するグループです。

行事としては、研究会等を通じ会員諸士の学究的な活動の成果を発表し意見の交換を行うと共に、文化財愛護思想の普及をめざし、一般市民向けの各種事業（たとえば史跡めぐりや講演会など）を年間数回実施し、市民文化の向上をはかっています。

実績としては「吹田市文化財地図」「吹田の主要文化財」等の執筆編集を担当、大阪府の「万国博敷地事前調査」に参加するなど数多く、会員諸氏の研究活動も活溌で、府並びに市の教育委員会から表彰されています。

会員数は現在約170名ですが、吹田市近辺の郷土史研究家、歴史同好者なら誰方でも入会できますので、代表者（池田）までご照会ください。

○会　長　池　田　半兵衛
〒564 吹田市片山町4丁目15—3
ＴＥＬ（06）388—0277

○事務局　石　丸　徳之輔
〒565 吹田市藤白台1丁目2番
Ｂ—34—503号
ＴＥＬ（06）833—5568

吹田郷土史研究会　定例研究会
（昭和53年1月29日市民会館にて）

千　里　探　史　会

50年10月甲賀の常楽寺、長寿寺、善水寺に詣でたのが第一回で（以来定例的に実施している）近畿各地の社寺を巡拝しています。京都、奈良などの観光寺はさけ無名の寺で美しい仏像に巡り会う感激は格別です。

9月から滋賀県甲賀地方の寺々を巡っています。11月からは甲西町、水口町、甲南町の地図にも書いてないような古寺を巡ります。何れも織田信長の甲賀征伐で焼かれたが、人々の信仰により仏像は助かり重要文化財に指定された数々の仏像が詣でる人に頭の下がる思いを与えます。

11月—浄福寺、新宮神社、正福寺、伊勢廻寺他
12月—観音寺、最勝寺、永昌寺、福照寺
1月—水無瀬神宮、大原野神社、長岡天満宮、石清水八幡宮

水口町岩坂　十三仏石

○会員数　180名　　○会費は当日の実費
○代表者　物　部　英　人
吹田市竹見台2丁目1番C7-904号
ＴＥＬ（06）871—3310番

このたび「文化財ニュース」として、市内の歴史・文化財等に関する小紙を刊行することとなりました。市内には多くの遺跡や歴史的伝承地や、それを証明する貴重な文化財があり、最近の急速な都市化の波を受けて、人知れずして変貌してゆくこともあります。これら文化財を保護し、永く後世に伝えることは、社会教育の重要な使命の一つであります。

しかし、これら文化財は私達市民の生活環境のきわめて身近かにあり、市民各位の深い認識なくしては充分な保護はなしえないのです。この小紙は、本市の文化財保護の現状を逐次お知らせするとともに、広く市民の皆様からの発言も取り上げ、両者一体となって、文化財保護の輪を広げてゆきたいと思っております。

吹田市教育委員会